

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	兵庫県・加西市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	加西市文化遺産を活用した地域活性化事業		
4 実施計画期間	平成 25 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>加西市では、加西市文化財審議委員会からの提言「文化財の保存と活用の新たな方向性の提言」（平成22年2月22日）を踏まえ、市内各地に存在する歴史文化遺産を活用し、観光振興や地域活性化を推進するため、また、次世代に歴史文化遺産を継承、発展させるまちづくり、ひとづくりを推進するため、さらに、新たな歴史文化遺産の掘り起しを推進するために、以下の取組を実施する。</p> <p>併せて、平成29年度に「加西市歴史文化基本構想」を策定し、より充実した文化遺産の保存と活用を図る。</p> <p><b>(1) 歴史文化遺産展示会・ワークショップ・見学会事業</b>  <b>【石仏ワークショップ事業】</b>加西の特徴である石の文化の周知・継承を行うため、石仏体験等を実施する。大人向けの石仏彫りワークショップは本年度4年目を迎え、5年目となる29年度を最終年度とする。（補助事業期間：平成25年度～29年度）</p> <p><b>(2) 継承のために用いる道具の修理事業</b>  <b>【屋台修理】</b>市内の祭屋台を、1基につき10ヶ年計画で部分修理を実施する。各年度5団体前後の修理事業を実施する。33年度以降も継続的に修理を行う。（補助事業期間：平成25年度～33年度）</p> <p><b>【北条節句祭り衣裝修繕】</b>節句祭りに使用する龍王の装束、神役の装束等の修理を順次実施し、10ヶ年計画で完了させる。本年は第3年次にあたる。（補助事業期間：平成26年度～33年度）</p> <p><b>【その他祭具修理】</b>市内の祭礼・民俗芸能に使用する用具修理を年1～2件程度実施する。（補助事業期間：平成27年～33年度）</p> <p><b>(3) 地域歴史文化遺産の掘り起こしのための調査研究事業</b>  <b>【小谷区調査事業】</b>小谷地区の中世史料調査を3ヶ年計画で実施し、今年度は史料調査を実施し、29年度に成果物を作成し補助事業を完了する。30年度以降は、成果物を活用した自主事業を実施する。（補助事業期間：平成28年度～29年度）</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、加西市教育委員会が全体計画の調整を行う。          実行委員会事務局を加西市教育委員会生涯学習課内に置く。          事業の実施については、次の団体が実施。</p> <p>加西市文化遺産活用実行委員会（会長：松本正光）          構成団体（加西市教育委員会、加西市文化観光スポーツ課、NPO法人まちづくり北条、鶴野平和祈念の碑苑保存会、五百羅漢保存委員会、黒駒区屋台保存実行委員会、東高室地区節句祭り運営委員会、窪田町自治会、小谷区文化財保存会、北条節句祭り保存会、網引獅子舞保存会、住吉神社歴史研究会）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 54,969 千円	平成29年度申請額： 9,957 千円
		(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>進学・遠方就職などによる離郷する青年層の郷里への帰属意識を高め、一時帰郷及び再定住を促し、人口増・地域の活性化をすすめ、加西市が掲げる5万人都市の再生へ繋げる。</p> <p>現在、加西市では小学校区ごとふるさと創造会議が設立され、住民主体の地域おこしが進められている。かつての祭礼行事は、神仏を祀るものと同時に、村や惣住人の団結の強化と帰属集団の再認識を行う場として用いられた。地域に根付く文化遺産を活用することで、地域の魅力を再発見し地域おこしの一翼を担うとともに、かつての祭礼行事と同様に、実施と参加により地縁の強化を図ることが期待される。</p> <p>地域の特色を打ち出す事業や修理事業により美しく蘇った祭礼具は、SNS等による格好の個人配信素材となるものであり、地域が注目される起爆剤となる可能性を秘めている。</p>			

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）	
事業概要：	
事業概要：	
事業概要：	
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等	
平成29年度に歴史文化基本構想を策定予定	
12 担当部局	
地方公共団体 担当部局課	加西市教育委員会 生涯学習課 （市史文化財係）

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	加西市観光入込数			関連事業 :	①～③	
目標値 1 :	平成 23 年度 84,000 人 ⇒ 平成 33 年度 92,400 人					
設定根拠 1 :	事業開始の平成23年度の加西市の観光客入込数84,000人を基礎値とし、他の市事業・イベントとの兼ね合いもあるが、毎年1%の増を目指す。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	五百羅漢保存委員会の会員数			関連事業 :	①	
目標値 2 :	平成 25 年度 18 人 ⇒ 平成 33 年度 30 人					
設定根拠 2 :	石仏彫りワークショップを開催し技術習得者(10人/年)を養成する。技術習得者を活かした事業を計画し、石材加工技術の普及と新規獲得を目指す。(事業期間:平成25～29年度)					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	北条節句祭りへの見学者を含めた参加者数			関連事業 :	②	
目標値 3 :	平成 25 年度 3,000 人 ⇒ 平成 33 年度 3,000 人					
設定根拠 3 :	用具の修理を行うことで、一時帰郷を促すなど担い手減少に歯止めをかけ、毎年3,000人規模の参加者の維持を目指す。祭礼規模が維持されることで担い手のモチベーション増につながる。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	

